

## 文化庁京都移転について

### ○文化庁とは

文化庁とは、文部科学省の外局の一つであり、舞台芸術やメディア芸術の振興など芸術活動の支援だけでなく、子どもたちの文化芸術体験活動の推進、地域文化の振興や文化財の保存・活用など、私たちに身近なことにも取り組んでいます。その他、国際文化交流を通じた日本文化の発信や、美術館、歴史博物館や国立文化施設等の運営など、多岐にわたる業務を行っています。

### ○文化庁の京都移転

現在の日本は東京圏に人口が集中しており、巨大災害へのリスクや少子高齢化による地方の疲弊といった問題を抱えています。省庁の地方移転は、東京に一極集中している様々な機能を分散し、地方から日本を元気にしようという、明治維新以来初めての試みです。

京都には、文化財が多く伝統文化が蓄積していること、文化財を活用した観光を強化できること、地方文化の多様性の確保につながること、といった点が評価され、文化庁の移転先に選ばれました。

京都移転に向けて、文化庁の機能強化が進んでおり、食文化をはじめとする生活文化などの振興や、経済・福祉など様々な関連分野と連携した文化政策が進められています。

文化庁が京都に移転することで、京都の強みである伝統産業や幅広いものづくり、映像・マンガ・アニメなどのコンテンツ、食、観光などを活かし、従来の文化芸術にとらわれない新しい文化が京都から次々と生まれ、日本文化が発展していくことが期待されています。

### ○移転先

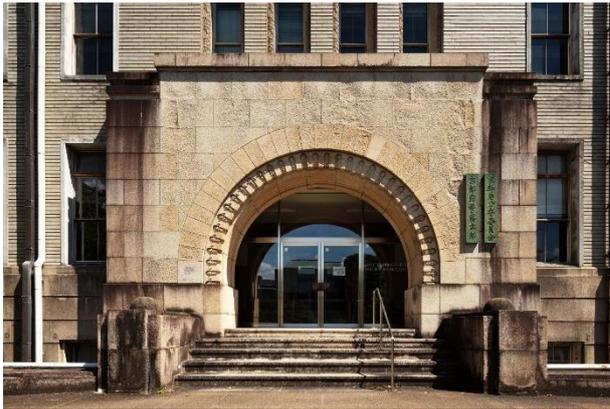
京都府庁横の旧京都府警察本部本館を改築・増築し、新庁舎の竣工後、速やかに移転し、2022（令和4）年度中の京都における文化庁の業務開始を目指しています。この建物は、昭和天皇の即位の礼に合わせ、昭和3年に建設された京都の近代化遺産であり、その文化的価値の高さが移転先に選ばれた理由の一つとなっています。

#### <新庁舎イメージ>





将来的な文化財への登録を視野に入れ、耐震化と共に歴史的建造物を保存、活用する視点で改修されます。



玄関のアーチ状の縁には彫りの深い装飾が残されています。全体として、外壁の凹凸を排除して幾何学模様を志向するモダニズムの傾向を強く見せています。一方で、要所には彫りの深い装飾を荒々しい質感の材料によって配置するという手法を貫いており、庁舎・ビル建築の意匠における秀作といわれています。

(旧京都府警察本部本館(現在))

< 移転場所 >



文化庁移転先

